

令和6年6月26日
岐阜県立飛騨高山高等学校
国土交通省 高山国道事務所

ビオトープ“飛騨の森再生”の生態系をまもるために ～飛騨高山高校の生徒と特定外来生物オオハンゴンソウを駆除～

PRポイント

道路内用地に創出したビオトープ内で生育している特定外来生物の駆除を高校生と協働で行い、ビオトープに適した生育環境の保全を図ります。

- 概要：高山西1C内に設けたビオトープ“飛騨の森再生”において、平成22年度から飛騨高山高校生徒が環境学習を実施しています。今年度3回目の実施となる今回は、2年生の皆さんと一緒にビオトープ内で生育している外来生物のうち、特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウ等の駆除を行い、ビオトープの生育環境の保全を図ります。
- 日時：令和6年 7月 2日(火)
13:30 ~ 15:30 【予備日：7月5日(金)、同時刻】
- 場所：中部縦貫自動車道高山清見道路 高山西インターチェンジ内
ビオトープ“飛騨の森再生”（高山市清見町牧ヶ洞地内）
- 参加者：岐阜県立飛騨高山高等学校 環境科学科 2年生
- 添付資料：別紙1～3のとおり
- 配布先：高山記者クラブ
- 問合せ先：岐阜県立飛騨高山高等学校 山田キャンパス
環境科学科 石黒 比利（いしぐろ ひとし）
TEL 0577-33-1060
FAX 0577-32-8994
国土交通省中部地方整備局 高山国道事務所
事業対策官 永富 達也（ながとみ たつや）
TEL 0577-36-3821
FAX 0577-36-3801
- 取材申込：事前に、以下のQRコードのリンク先、またはURLよりお申し込みください。
URL：<https://forms.office.com/r/T1Mt79tgWj>

取材登録票QR



別紙— 1

学習内容

今回は、環境科学科の2年生が参加し、ビオトープ内に生育している外来植物のうち、特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウを中心に駆除を行います。オオハンゴンソウを根絶させるには相当の年数を要すると予想されるため、今後も駆除を継続するとともに、ビオトープにおける維持管理の必要性と外来生物の持ち出さない・持ち込まない事の必要性を学びます。

オオハンゴンソウの駆除

北アメリカ原産のオオハンゴンソウは、種子による繁殖が旺盛で成長が早いうえ、伐採してもすぐに萌芽して再生することから、ビオトープ内の在来種と競合し駆逐する可能性があります。作業は、種子の繁殖を防ぐため花が咲き始める7月～8月に実施し、根を残さないようスコップで掘り起こして抜き取り、また種子・根が飛散しないように手作業で行い、駆除後は抜き取ったオオハンゴンソウは種子などがこぼれないよう密閉できるゴミ袋等に入れてしっかりと枯らし焼却処分とします。



ビオトープに侵入したオオハンゴンソウ

これまでの学習会状況



オオハンゴンソウの駆除作業



駆除したオオハンゴンソウ等の外来植物

オオハンゴンソウの特徴



花：直径は6cm程



上部の葉：葉に柄はない



下部の葉：葉に柄があり
深く切れこむ

高山西ICビオトープ “飛驒の森再生”

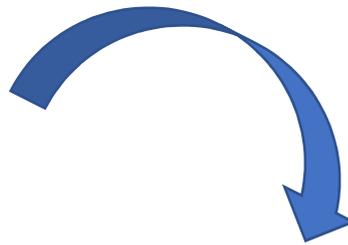
ビオトープ “飛驒の森再生” 整備

中部縦貫自動車道高山清見道路の建設により、動植物の生息・生育環境が大きく変化する可能性がありました。そのため、環境保全を目的として、インターチェンジ内にビオトープ『飛驒の森再生』を計画し、平成16年11月に高山清見道路（飛驒清見IC～高山西IC）の供用と同時に完成しました。

さらに、平成22年7月には、飛驒高山高校と高山国道事務所でビオトープの「維持管理に関する協定」を締結し、継続して動植物の生息・生育環境創生に取り組んでいます。



整備直後（平成16年11月）



近年の状況（令和5年5月）

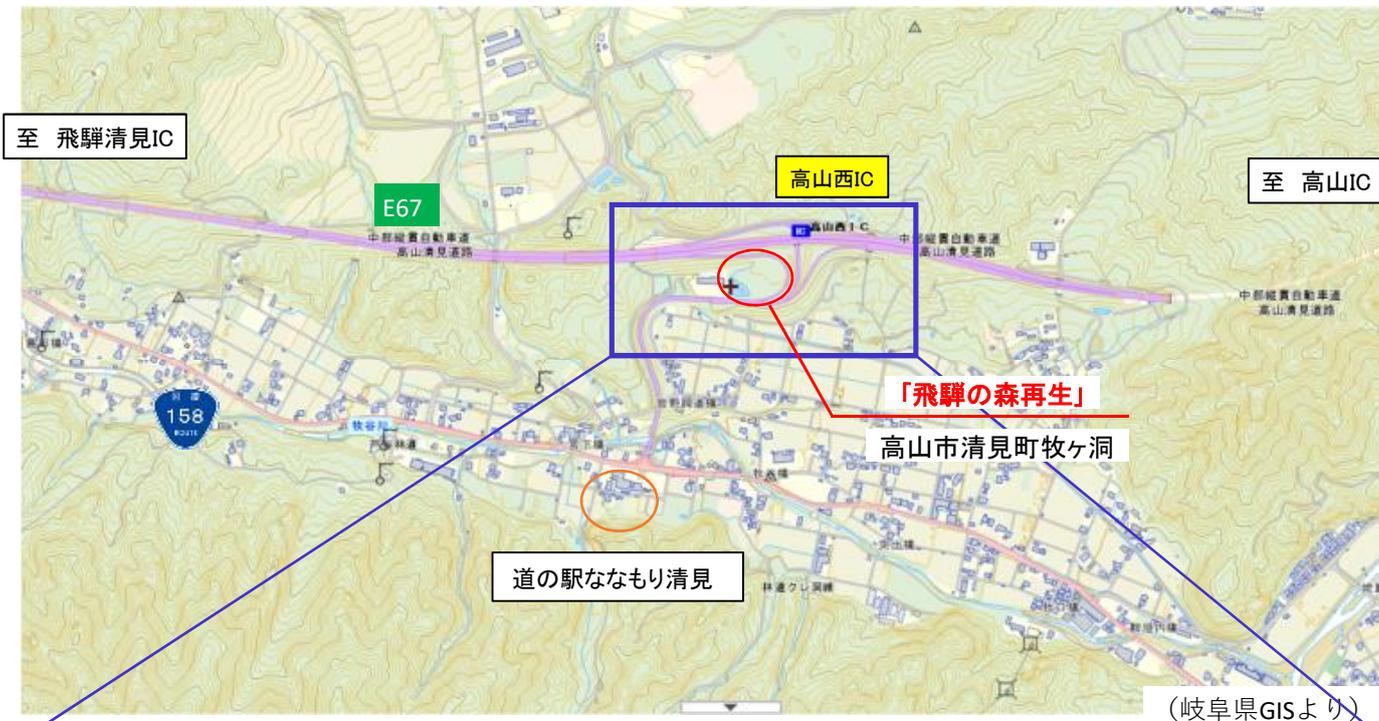
ビオトープ “飛驒の森再生” 整備

完成してから20年が経過したビオトープに移植した根株・貴重植物共に生育状況は良好です。また、周辺域に分布する 在来種もビオトープを利用しており、ビオトープ内は調整池や植生の変化に併せて、両生類（カエル）や昆虫類（チョウやトンボ、バッタ）などの定着が順調に進み、生物の多様化が進んでいます。

飛驒高山高校との協働による継続的な維持管理活動により、貴重な植物が繁殖または再確認されるなど、様々な動植物の生息・生育環境が維持されています。

環境学習 実施位置図

実施場所：高山西IC内 ビオトープ「飛驒の森再生」



取材希望の方は清見除雪センターにお集まりください。

(岐阜県GISより)